

火おこし体験

縄文人になりきってはずみ車付きの火おこし器で火をおこします。

火おこし体験から野外炊飯を実施すれば最高の思い出に。
 班の協調性や最後まで努力する心の伸長、達成感を味わえます。



時期	4～10月	所要時間	1時間	人数	50名
対象	小学校中学年以上	活動場所	野外炊飯場		
準備物	自然の家で貸し出す物		団体・個人で準備する物		
	火おこし体験セット		<input type="checkbox"/> 活動に適した服装 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 水筒(必要に応じて)		
活動の手順	事前指導	1 内容の確認 昔ながらの方法で、火をおこすことにより、火の大切さや必要性を理解することができます。 自分たちで火をおこす体験により、達成したという満足感を味わうことができます。 2 準備品の確認 ・活動できる服装を確認する。 ・火おこし体験セットの確認をする。			
	活動の実際	1 活動の説明を聞く。 (1)ねらいの確認 (2)活動方法 ①火きり臼(うす)の上に火きり杵(杵)を立てる。 ②ひもを火きり杵(きね)にまきつける。 ③火きり弓を上下に動かして火きり杵(きね)を回転させる。 ④木と木の摩擦で、煙が出てくる。 ⑤火切り(うす)の穴からこげた木の粉がこぼれ、その中に火種(ひだね)ができる。 ⑥火種(ひだね)をもやもや(ティンダーヘンプ)と木くずに移し空気を送り、火を大きくする。 2 活動開始 起きた火をかまどに移す際に火傷に注意させます。			
	事後	1 怪我の確認をする。			
備考	起きた火で野外炊飯等を実施すれば、活動プログラムにつながりが生まれます。				

